

履歴および研究業績表について

池田 浩 太郎

私の古稀、定年退職を機会に、成城大学経済学会は、記念論文集の公刊を計画して下された。誠に有難いことである。平々凡々と齢を重ねてきたにすぎない私にとっては、これは一面、気恥かしいことではある。しかし、これが私の人生のひとくぎりであると思えば、また感慨一入でもある。

顧みれば、半世紀以上も前の学生時代から、恩師、先輩、同僚、友人の方々の厚意に支えられて、無事今日にたどりつくことができたのである。その間私にも、数々の私なりの思い出、エピソードといったものもある。それらの一端については、かつて雑誌成城大学『経済研究』所収の拙稿「経済と国家——『大きな政府』論対『小さな政府』論、その対立と展開過程——」（第一二八号、平成七年三月）や、「私の財政学研究の周辺」（第一三三号、平成八年七月）のなかで、述べる機会をいただいた。

ここでは、これらを補完する意味で、恩師井藤半彌先生からいただいた「一通の手紙」（と題する拙文「橋畔に——そして今——戦後五〇年記念文集——」橋畔会、平成七年、所収）を、まず、再録させていただきたい。

その他にも、思い出やエピソードの類で、書いておきたいと思うことがないでもない。しかし、これについて

履歴および研究業績表について

履歴および研究業績表について

は、別の機会にゆずることにしよう。

次いで、記念論文集の類では、いわば定番となつている、私の「履歴および研究業績表」については、さしあたり、ごくありきたりの形のものにまとめてみたい。すなわち、適宜私的メモのような短い注を、カッコ内に追記しつつ、年月を追つてそれらを整理しておくことにしよう。誕生日がくると、私の（満）年齢が昭和の年号と同じになるので、ここでの年月の記載は、何歳のときのことかを容易に知ることができる、という便宜もある。

特に私の「研究業績表」に関しては、そのときどきに興味をもつた、いくつかの研究テーマ毎に、それらを整理分類しつつ、若干の私見を交えて紹介させていただく、といったまとめ方にも、未練がないわけではない。しかし、この方法によるときには、それは自己満足とか、自己宣伝に見られはしないか、とも思う私の過剰な？ 自意識が、これにしりごみさせられてしまう。

そもそも私は、自身のいままでの研究業績を一覧できるものを、未だ作つてはいない。それゆえこの機会に、私のきわめてささやかな研究結果を、最も平凡ではあるが、できうる限り網羅して、公表年月順に並べたものを、少なくとも私自身の備忘の意味で作っておきたい、と考えた。もちろん、いまとなつては、なお遺漏なきを期しがたい、といった所ではあるが。そこで、この一覧表では、さらに、昭和三〇年以前、昭和三〇年代、昭和四〇年代、昭和五〇年代……、といった十年毎の区分もおこなつてみた。私の三〇歳代、四〇歳代……、などと合致するからである。

「一通の手紙」

吉祥寺東町の御宅を辞して、ノンビリと湘南平塚のわが家に帰り着くと、やがて追いかけるかのように一通の手紙が届けられた。

拝啓、一度拝眉の上申上げ度く存じて居りましたが、手紙で申します。

一、成城の今度の講義は学兄の教授生活の第一歩にて、ここ二、三年間は万事を捨てて講義の準備第一の生活を送られること。何事もスタートが第一にて、万一スタートがまずいと終生困るものです。

講義の準備とは、次回講義すべき個所を中心として内外の文献その他を精読し、教科書にない事を附言・筆記せしめることです。講義の準備に時間をとられるのは馬鹿馬鹿しい等と考へては必ず失敗します（教授生活十年後は別として）。学生は勉強している講義には必ずひきつけられるものです。

二、学生に筆記せしむべきことは、予め原稿を作り、大綱をディクテートする方式をとること。毎時間必ず筆記せしめること。

三、学生と絶対に争はぬこと。いかにシャクにさわっても怒らぬこと。怒ったりするとあと味がわるく、結局は教員側が負けとなります。怒らぬ修養はなかなかむつかしいが、努力すること。

四、自分にもよくのみこめないことは絶対に講義せぬこと。

履歴および研究業績表について

履歴および研究業績表について

八月九日

池田学兄

井藤半彌

井藤先生宅では、成城大学経済学部で財政学をはじめて講義するにあたっての、さまざまな注意事項について、非常に細かに、具体的に教示いただきました。が、そもそもの基本的な心構えといったものについては、先生も照れくさくて、面と向っては話しにくかったのでありましょう。さきの手紙が私を追いかけて来たわけです。昭和二十九年のことでした。

もちろん、これと前後して井藤先生からは、財政学研究者としての身の処し方についても、いろいろと具体的な指導と便宜をいただきました。たとえば、

ドイツ語学習のためにドイツ人講師の紹介をいただいたり、

明晰な思考に資するとの見地から、海外で英語やドイツ語で著作、論文を公表することを指示・斡旋されたり、在外研究先での指導教授を依頼していただいたり、

論文草稿を時間をかけて何回でも読まれ、注意をいただいたり、

成城での私の「財政学」講義の補強もあって、一橋大学学長の激戦中の時期も含め、数年にわたって、成城で「財政各論」講義を受け持っていたり、

といった御助力を先生の御存命中、すなわち、およそ三〇年にわたって続けて下さいました。

さて、井藤先生から一通の手紙をいただいてから、四〇年もたち、私の成城での「財政学」の講義も、本年度

が最終のものとなりました。その間、井藤先生の御手紙を折にふれて思い起こしつつ、講義につとめてまいりました。しかし、成果のほどは自信ありません。

これも私の教師経験から申し上げるのですが、学生のもつ教師観には、正しい一面もありましょう。しかし、教師の学殖についての学生の評価ほど、あてにならないものはありません。これは、私たちが教えを受けた一橋の先生方についての、私たちの感想にもあてはまるのではないでしょうか。

私が昭和二〇年に井藤ゼミを取らせていただいたのは、全く深い考えもなく、ただ予科長をされていた関係で、名前を存じ上げている数少ない学部教授の一人であった、という理由だけからでした。

学生時代には、京都弁の非常に愉快な講義をされる先生、といった印象しか私はもつことができませんでした。しかし、私自身の研究を進めるうちに、先生はますます高い存在であることが、私にも徐々にわかってきました。結局、明治維新以降のわが国の百余年にわたる「財政学」研究の発展史において、先生がまず第一にあげらるべき、まことに一世紀に一人の偉大な財政学者でありますことが、おくれ馳せながら確信できるようになりました。私は縁あって一橋に学ぶことができ、井藤先生の門をた敲くことができた幸運を、今さらながら感謝の念をもつてかみしめております。

履歴および研究業績表について

履歴

池田浩太郎

本籍地 神奈川県平塚市黒部丘三二四ノ一三四

現住所 神奈川県平塚市黒部丘五ノ三六

生年月日 大正十四年（一九二五年）六月二十九日

（神奈川県中郡平塚町―当時―に池田保太郎・マサの長男として出生

昭和三年―一九五七年―五月、伊藤千代子と結婚

昭和三年―一九五八年―五月、長男 浩史誕生

昭和三六年―一九六一年―五月、次男 史隆誕生）

学歴

昭和七年（一九三二年）四月 平塚市立平塚第一尋常小学校 尋常科入学

昭和十三年（一九三八年）三月 同校卒業

昭和十三年（一九三八年）四月 神奈川県立湘南中学校入学

昭和十八年（一九四三年）三月 同校卒業

昭和十八年（一九四三年）四月 東京商科大学（現一橋大学）予科入学

昭和二〇年（一九四五年）四月 同大学学部入学

昭和二十三年（一九四八年）三月 同大学学部卒業 商学士

（ゼミ指導の井藤半彌教授に提出した卒業論文の標題は、「社会主義思想家ゾムバルト」であった）

昭和二十三年（一九四八年）四月 東京商科大学大学院研究科入学

昭和二十四年（一九四九年）三月 東京商科大学大学院研究科退学

昭和二十四年（一九四九年）四月 東京商科大学大学院特別研究生——昭和二十九年（一九五四年）三月まで

職 歴

昭和二十九年（一九五四年）六月 成城大学経済学部専任講師 財政学担当

昭和三十三年（一九五七年）十月 成城大学経済学部助教授

昭和三十七年（一九六二年）八月から昭和三十八年（一九六三年）四月まで

私学研修福祉社会資金にてドイツのハンブルク大学フォークト教授 Fritz Voigt, 1910-1994 のもとで在外研究

昭和三十九年（一九六四年）十月 成城大学経済学部教授

履歴および研究業績表について

履歴および研究業績表について

昭和四二年（一九六七年）四月 成城大学大学院経済学研究科経済学専攻博士課程前期担当
昭和四二年（一九六七年）六月から昭和四三年（一九六八年）四月まで

ドイツ・フンボルト財団教員助成 *Dozentenstipendium* にて、ドイツのボン大学フォークト教授のもとで在外研究

昭和四四年（一九六九年）四月 成城大学大学院経済学研究科経済学専攻博士課程後期担当
昭和四六年（一九七一年）四月から昭和五〇年（一九七五年）三月まで 成城大学教務部長
昭和五六年（一九八一年）四月から昭和六〇年（一九八五年）三月まで 成城大学経済学部長
平成八年（一九九六年）三月 成城大学経済学部教授を定年退職 成城大学名誉教授

（他に非常勤講師として左記で財政学関係課目の担当歴がある。

国税庁税務大学校本科、国際基督教大学および大学院、東京国際大学大学院経済学研究科、駿河台大学大学院経済学研究科、など。）

業績

著書（および共著、共編著）、訳書（および共訳書）

——ここでは著作のタイトル・ページに、池田浩太郎の名のあるものに限って、共著、共編著、共訳書としてあげておいた。

——昭和四〇年代（一九六五—七四年）——

（共編著） Naosaku Uchida and Kotaro Ikeda, eds., *Social and Economic Aspects of Japan. Seijo Gakuen Jubilee Year, 1917-1967*, Chikura-Shobo, Tokyo, 1967.

Kotaro Ikeda, *Finanzielle und fiskalische Maßnahmen der Regierung zur Pflege des Kapitals in der frühen Meiji-Zeit (1868-1890)*, 収載。

※（共編著） Kotaro Ikeda, Y. Kato, J. Taiyōji, *Die industrielle Entwicklung in Japan unter besonderer Berücksichtigung seiner Wirtschafts- und Finanzpolitik*, Duncker und Humblot, Berlin 1970.

（山田高生教授は独文作成を分担）

履歴および研究業績表について

履歴および研究業績表について

(共訳書) 岡田清・池田浩太郎共訳・F・フォークト『交通体系論』千倉書房、昭和四七年。

(寿田竜輔、杉ノ原保夫の両教授は独文邦訳を分担)

——昭和五〇年代(一九七五—八四年)——

※(訳書) 池田浩太郎訳・カール・ディーツェル『公債の経済理論』千倉書房、昭和五二年。

(共編著) 大川政三・佐藤博・池田浩太郎編著『財政政策の新展開』千倉財政学シリーズ 1、千倉書房、昭和五五年。

池田浩太郎「中期財政計画の策定をめぐる若干問題」収載。

※(共著) 大川政三・池田浩太郎共著『近世財政思想の生成——重商主義と官房学——』千倉書房、昭和五七年。

——昭和六〇年代から平成六年まで(一九八五—一九九四年)——

(共編著) 大川政三・池田浩太郎編『新財政論——理論・制度・政策の総合——』大学双書、有斐閣、昭和六一年。

池田浩太郎「第一章 資本主義の発展と財政学説」および「第七章 公債」収載。

(共著) 大川政三・佐藤博・小林威・池田浩太郎共著『財政学——現代財政の理論と政策——』春秋社、平成二年。

池田浩太郎「第二章 財政学の生成と発展」、第三章 予算」および「第七章 公債」収載。

(平成九年の第九刷までに数回改訂)

※(著 書) 池田浩太郎著『公債政策思想の生成と展開』千倉書房、平成三年。

——平成七年(一九九五年)以降——

※(共訳書) 杉ノ原保夫・池田浩史・池田浩太郎共訳・K・ヴィクセル『財政理論研究』千倉財政学シリーズ

2、千倉書房、平成七年。

——※印付の著作については、それぞれの公刊年次と、後掲「論文、翻訳、書評、事項解説、など」における同年次近辺の※印付カッコ内にある私注を参照されたい。

論文、翻訳、書評、事項解説、など

昭和二八年(一九五三年)

(論文) 「新経済学派の二元的経済組織論」…『一橋論叢』第二九卷一号、昭和二八年一月、所収。

(論文) 「わが国所得税制度の創設」…『金融経済』第二二号、昭和二八年十月、所収。

昭和二九年(一九五四年)

(書評) 「ファーンズワース著『アディントン、近代所得税の創設者』(一九五一年)」…『一橋論叢』第三二卷

履歴および研究業績表について

履歴および研究業績表について

二号、昭和二十九年八月、所収。

(論文) 「ゾムバルトの社会主義思想——その本質——」…成城大学『経済研究』第二号、昭和二十九年十月、所収。

(書評) 「ゲルロフ・ノイマルク編『財政学全書』新訂版、第一巻、一九五二年」…成城大学『経済研究』第二号、昭和二十九年十月、所収。

(書評) 「ホープ・ジョーンズ著『ナポレオン戦争時代の所得税』一九三九年」…『一橋論叢』第三二巻六号、昭和二十九年十二月、所収。

——昭和三〇年代（一九五五—六四年）——

昭和三〇年（一九五五年）

(論文) 「ゾムバルトの社会主義思想——その生成過程——」…成城大学『経済研究』第三号、昭和三〇年二月、所収。

(卒業論文を訂正の上、成城大学『経済研究』第二号、所収の論文と、二分割の形で公表したもの)

(論文) 「三元的経済組織論の展望」…成城大学『経済研究』第四号、昭和三〇年九月、所収。

昭和三二年（一九五六年）

(論文) 「イギリス所得税の先駆的諸税について」…『一橋論叢』第三五巻一号、昭和三二年一月、所収。

(論文) 「タウチャーの『課税限界論』について」…成城大学『経済研究』第五号、昭和三二年二月、所収。

(論文) 「わが国所得税の創設とその社会的諸条件——歴史的・社会学的の研究——」：成城大学『経済研究』第六号、昭和三二年九月、所収。

昭和三二年（一九五七年）

(論文) The Establishment of the Income Tax in Japan (A Historical and Sociological Study), in: Public Finance, vol. XII/no. 2, Haarlem, Netherlands, 1957.

(前掲、成城大学『経済研究』第六号、所収の拙稿の英語版)

(書評) 『井手文雄著『近代財政学』——財政における生産原則の支配について——』：『一橋論叢』第三七巻六号、昭和三二年六月、所収。

(論文) 「イギリス所得税前史——イギリス所得税の先駆税——」：成城大学『経済研究』第七号、昭和三二年十二月、所収。

昭和三三年（一九五八年）

(論文) 「公債の現状分析」：林栄夫・高橋長太郎編『日本の財政分析』近代財政講座、第三巻、春秋社、昭和三三年、第四章。

(書評) 「大蔵省大臣官房調査課長中嶋晴雄編『図説日本の財政』昭和三三年度版」：『財政経済弘報』、七月二一日号、所収。

(論文) 「わが国公債の成立——明治初期公債政策——」：成城大学『経済研究』第八・九合併号、昭和三三年九月、所収。

履歴および研究業績表について

履歴および研究業績表について

昭和三五年（一九六〇年）

〔論文〕「公債の現状分析」…木村元一編『財政』日本経済の分析、第十卷、春秋社、昭和三五年、第四章。

〔論文〕秩禄処分経過と公債交付——明治初期公債政策の一節——…成城大学『経済研究』第十二号、昭和三五年五月、所収。

〔論文〕「公債の影響と日本経済——その動きと現状をめぐって——」…『公営評論』一九六〇年六月号、所収。

〔論文〕「旧藩債処分と新・旧公債の交付——明治初期公債政策の一節——」…井藤半彌博士退官記念論文集

『財政学の基本問題』千倉書房、昭和三五年、所収。

〔論文〕「財政社会学の一形態——マン『財政理論と財政社会学』一九五九年について——」…成城大学『経済

研究』第十三号、昭和三五年十二月、所収。

昭和三六年（一九六一年）

〔論文〕「明治初期における官金取扱の財政的意義」…成城大学『経済研究』第十四号、昭和三六年十一月、所収。

昭和三七年（一九六二年）

〔論文〕「官金出納の展開過程——明治初期における官金出納の金融的意義（その一）——」…成城大学『経済研究』第十六号、昭和三七年十一月、所収。

昭和三八年（一九六三年）

〔論文〕「官金出納の整理過程——明治初期における官金出納の金融的意義（その二）——」…成城大学『経済

研究』第十七号、昭和三八年三月、所収。

(論文) 「わが国資本主義経済の成立と財政・金融政策」…成城大学『経済研究』第十八号、昭和三八年十一月号、所収。

昭和三九年(一九六四年)

(論文) 「官金取扱政策と資本主義の成立」…岡田俊平編『明治初期の財政・金融政策』清明会叢書 1、昭和三九年、所収。

(論文) 「わが国資本主義経済の成立と財政・金融政策(続)」…成城大学『経済研究』第十九号、昭和三九年三月、所収。

(書評) 「Werner Krause, Werner Sombarts Weg vom Kathedersozialismus zum Faschismus, Berlin 1962.」…成城大学『経済研究』第十九号、昭和三九年三月、所収。

(論文) 「わが国資本主義の発展と財政・金融政策」…成城大学『経済研究』第二〇号、昭和三九年十月、所収。

——昭和四〇年代(一九六五—七四年)——

昭和四〇年(一九六五年)

(書評) 「高橋誠著『明治財政史研究』一九六四年」…『週刊読書人』二月二日号、所収。

(論文) 「わが国資本主義経済の停滞と財政・金融政策」…成城大学『経済研究』第二二号、昭和四〇年三月、所収。

履歴および研究業績表について

履歴および研究業績表について

(論文) 「準戦時および戦時下日本経済と財政・金融政策」：成城大学『経済研究』第二号、昭和四〇年十月、所収。

(書評) 「Konrad Littmann, Zunehmende Staatsätigkeit und wirtschaftliche Entwicklung, Köln und Opladen 1957.」：成城大学『経済研究』第二号、昭和四〇年十月、所収。

昭和四一年(一九六六年)

(論文) 「戦時経済と財政・金融政策——準戦時・戦時経済と財政・金融政策(一)——」：成城大学『経済研究』第二三号、昭和四一年三月、所収。

(論文) 「高橋財政」をどう評価するか」：『アナリスト』一九六六年五月号、所収。

昭和四二年(一九六七年)

(論文) 「日本における工業化と財政・金融政策」：成城大学『経済研究』第二五号、昭和四二年六月、所収。

昭和四三年(一九六八年)

(論文) Die Finanzpolitik Japans am Anfang der 30er Jahre—Ein Wendepunkt in der Geschichte der Finanzpolitik Japans—, in : Maliye Enstitüsü Konferanslari, Oryedinci Seri—Sene 1968, Fakulteler Matbaasi, Istanbul, 1968.

(論文のトルコ語訳) 1930 Seneleri Baslangicinda Japon Maliye Politikasi—Japon Maliye Politikasi Tarhinde Bir Dönüm Noktasi—

(前掲ドイツ語論文と併載)

※(前掲、成城大学『経済研究』第十八・十九・二〇・二二・二三・二五号、所収の拙稿およびイスタンプー

ル大学に提出の、前掲ドイツ語拙論とを基礎に、前掲ドイツ語共著 *Die industrielle Entwicklung in Japan....., Berlin 1970.* の私の担当分——最初から一三二ページまで——を作成)

昭和四四年（一九六九年）

（論文）「財政思想と財政構造の変遷」…大川政三・宇田川璋仁編『財政学講義』青林書院新社、昭和四四年、第一章。

昭和四五年（一九七〇年）

（論文）「一九三〇年代初頭におけるわが国財政・金融政策——わが国財政・金融政策の転換について——」
…井藤半彌編『租税財政論集、第2集』日本租税研究協会、昭和四五年、所収。

（論文）「初期ドイツ財政学の一研究について——ビェーリ著『初期ドイツ財政学の位置づけ』を読む——」

…成城大学『経済研究』第三二号、昭和四五年三月、所収。

（論文）「ワーグナー『法則』の現代的意義——タウチアーの国家の経済的過剰権力論について——」…成城大

学『経済研究』第三三号、昭和四五年七月、所収。

（翻訳）「ペッチ『景気と輸送』」…『成城大学経済学部創立二十周年記念論文集』成城大学経済学会、昭和四五

年、所収。

昭和四七年（一九七二年）

（論文）「我が国一九二〇年代の経済の様相と財政・金融政策」…成城大学『経済研究』第三七号、昭和四七年三月、所収。

履歴および研究業績表について

履歴および研究業績表について

(論文) 「わが国一九二〇年代の経済の様相と財政・金融政策(続)」…成城大学『経済研究』第三八号、昭和四七年六月、所収。

(翻訳) 「カール・デイツェル『国民経済との関連よりみたる国債制度』(一)…成城大学『経済研究』第三九号、昭和四七年九月、所収。

(翻訳) 同 (二)…成城大学『経済研究』第四〇号、昭和四七年十二月、所収。
昭和四八年(一九七三年)

(翻訳) 「カール・デイツェル『国民経済との関連よりみたる国債制度』(三)…成城大学『経済研究』第四一号、昭和四八年三月、所収。

(翻訳) 同 (四)…成城大学『経済研究』第四二号、昭和四八年六月、所収。

(翻訳) 同 (五)…成城大学『経済研究』第四三号、昭和四八年九月、所収。

(翻訳) 同 (六)…成城大学『経済研究』第四四号、昭和四八年十二月、所収。

昭和四九年(一九七四年)

(論文) 「公債問題の諸側面」…『有井治教授古稀記念論文集』成城大学経済学会、昭和四九年、所収。

(翻訳) 「カール・デイツェル『国民経済との関連よりみたる国債制度』(七)…成城大学『経済研究』第四六号、昭和四九年六月、所収。

(翻訳) 同 (八)…成城大学『経済研究』第四七・四八合併号、昭和四九年十月、所収。

——昭和五〇年代（一九七五—八四年）——

昭和五〇年

〔翻訳〕「カール・ディーツェル『国民経済との関連よりみたる国債制度』(九)・・成城大学『経済研究』第四

九号、昭和五〇年三月、所収。

〔論文〕「財政および財政学の生成と現状」、「公債」・・大川政三編『財政論』大学双書、有斐閣、昭和五〇年、

第一章および第五章。

〔翻訳〕「カール・ディーツェル『国民経済との関連よりみたる国債制度』(完)・・成城大学『経済研究』第五

〇号、昭和五〇年七月、所収。

〔事項解説〕「不運な経済学者ゾンバルト」・・『基礎ドイツ語』昭和五〇年十月号、所収。

昭和五二年（一九七六年）

〔論文〕「カール・ディーツェルの公債学説とその学説的地位」・・成城大学『経済研究』第五三号、昭和五二

年三月、所収。

※(カール・ディーツェルの著作の訳稿(一)——(完)と本稿とをともに、前掲訳書、カール・ディーツェル『公債の経済理論』千倉書房、昭和五二年を公刊)

〔論文〕「初期ドイツ財政学」における公債論の一節——ヤープとラウ——・・大川政三・石弘光編『財政

学研究』木村元一名誉教授記念論文集、春秋社、昭和五一年、第一章。

〔論文〕「ワーグナー公債論とその学説的地位」・・内田直作名誉教授古稀記念論文集』成城大学経済学会、

履歴および研究業績表について

履歴および研究業績表について

昭和五十一年、所収。

昭和五二年（一九七七年）

〔論文〕「長期財政計画の必要」…加藤芳太郎・宇田川璋仁編『日本財政の改革と課題』井手文雄教授退官記念、

東洋経済新報社、昭和五二年、第二章。

昭和五三年（一九七八年）

〔論文〕「生成期古典派経済学における起債原則論」…成城大学『経済研究』第五九・六〇合併号、昭和五三年

二月、所収。

〔論文〕「完成期古典派経済学における起債原則論——マカロックとJ・S・ミル——」…成城大学『経済研

究』第六一号、昭和五三年三月、所収。

〔論文〕「起債原則学説とその現代的意義」…『現代財政論の再検討』林栄夫先生還暦記念、有斐閣、昭和五三

年、所収。

〔論文〕 Vier Aspekte des Staatsschuldenproblems in Japan. : 成城大学『経済研究』第六二号、昭和五三年七月、

所収。

昭和五四年（一九七九年）

〔論文〕 Vier Aspekte des Staatsschuldenproblems in Japan, in : Alexander von Humboldt-Stiftung, Wissenschaftliche

Zusammenarbeit und Austausch zwischen Deutschland und Japan, Bonn 1979.

〔前掲ドイツ語論文は、いずれも昭和五三年四月、京都でおこなわれたドイツ・フンボルト財団主催の日独学術

交換会議での、ドイツ語報告原稿をもとに作成したもの)

(翻訳) 「マンフレート・ヴィルムス『国債増発の経済的諸作用——西ドイツの状況——』…成城大学『経済

研究』第六四号、昭和五四年二月、所収。

昭和五五年(一九八〇年)

(論文) 『初期ドイツ財政学』時代の—公債学説について——シュトルーエンゼーの公信用論——…成城大

学『経済研究』第六八号、昭和五五年一月、所収。

(論文) 「カメラリスムス——その財政・租税思想——」…『税』第三五卷五号、昭和五五年五月、所収。

(論文) 「カメラリスムスの起債原則学説について——ユステイとゾンネンフェルスの公債論——」…『成城大

学経済学部創立三十周年記念論文集』成城大学経済学会、昭和五五年、所収。

昭和五六年(一九八一年)

(論文) 「ペティとヴォーバン——マークンティリズムの財政思想——」…成城大学『経済研究』第七二・七三

合併号、昭和五六年三月、所収。

(論文) 「国債依存財政との訣別」…『税』第三六卷五号、昭和五六年五月、所収。

(論文) 「ゼッケンドルフ『ドイツ王侯国家』——前期官房学の財政思想(一)——」…成城大学『経済研究』第

七四号、昭和五六年七月、所収。

(論文) 「ホルニク『オーストリア至上論』——前期官房学の財政思想(二)——」…成城大学『経済研究』第七

五号、昭和五六年十月、所収。

履歴および研究業績表について

履歴および研究業績表について

昭和五七年（一九八二年）

〔論文〕「ユスティ『財政の体系』——後期官房学の財政思想（一）——」…成城大学『経済研究』第七六号、昭和五七年一月、所収。

〔論文〕「ゾンネンフェルス『行政・商業および財政の原理』（——後期官房学の財政思想（二）——）」…成城大学『経済研究』第七七号、昭和五七年三月、所収。

※（成城大学『経済研究』第七二・七三合併号、第七四・七五・七六・七七号、所収の五論文をもとにして、前掲共著『近世財政思想の生成』千倉書房、昭和五七年の私の担当分である最初から一八二ページまでを作成した）

〔論文〕「官房学ないし官房学的財政論——その原典と研究文献——」…成城大学『経済研究』第七八号、昭和五七年十月、所収。

〔論文〕「古典派的起債原則論のドイツへの流入——『初期ドイツ財政学』の公債論——」…成城大学『経済研究』第七九号、昭和五七年十二月、所収。

昭和五八年（一九八三年）

〔論文〕「カメラリスムスとその財政思想——一つの総括——」…成城大学『成城法学』第十三号、昭和五八年三月、所収。

〔論文〕「ドイツ・カメラリスムス」…大川政三・小林威編『財政学を築いた人々——資本主義の歩みと財政・租税思想——』ぎょうせい、昭和五八年、所収。

昭和五九年（一九八四年）

(論文) 『初期ドイツ財政学』の起債原則論——ネーベニウスとベルヌリ——』…成城大学『経済研究』第八四号、昭和五九年三月、所収。

(論文) 「ワグナー財政学説とその社会政策的要素——アードルフ・ワグナーの社会政策思想——」…成城大学『経済研究』第八六号、昭和五九年十月、所収。

(論文) 「国債大量償還下の財政運営の基本課題」…『税』第三九卷十号、昭和五九年十月、所収。

(事項解説) 「官房学的財政論」、「重農主義財政学説」、「スミス財政学説」、「ワグナー財政学説」、「財政社会学」、「ケインズ派財政論」、「ブキャナン財政学説」…高橋泰藏・増田四郎編『体系経済学辞典』第六版、東洋経済新報社、昭和五九年、所収。

——昭和六〇年代から平成六年まで(一九八五—一九九四年)——

昭和六〇年(一九八五年)

(論文) 「国家社会主義と社会政策——アードルフ・ワグナーの社会政策思想——」…大陽寺順一教授還暦記念論文集『社会政策の思想と歴史』千倉書房、昭和六〇年、所収。

(論文) 「公債学説と現下の公債問題」…旬刊『速報税理』十一月一日号、所収。

昭和六一年(一九八六年)

(論文) 「ローレンツ・フォン・シュタインの起債原則論——『三巨星』の起債原則学説——」…成城大学『経済研究』第九二号、昭和六一年三月、所収。

履歴および研究業績表について

履歴および研究業績表について

(論文) 「経済政策的起債原則論の源流——カール・デーツェルの公債学説——」…石弘光編『現代財政学

研究』大川政三名誉教授記念論文集、春秋社、昭和六一年、第一章。

(論文) 「アルバート・シェフレの起債原則論——経済状況指向的起債原則の主張——」…成城大学『経済研

究』第九四号、昭和六一年十月、所収。

(論文) 「ワグナー財政論とその起債原則学説——目的関連的起債原則論タイプの一つの完成——」…上杉栄

市・田中啓一・高橋利雄・金指基編『近代財政経済の理論とその展開』大淵利男教授還暦記念論文集、

評論社、昭和六一年、所収。

昭和六二年(一九八七年)

(論文) 「目的関連的起債原則論の展開過程——二〇世紀初頭の起債原則論——」…成城大学『経済研究』第九

五号、昭和六二年一月、所収。

(論文) 「景気関連的起債原則論の台頭——二〇世紀初頭の起債原則論——」…成城大学『経済研究』第九六号、

昭和六二年四月、所収。

昭和六三年(一九八八年)

(論文) 「景気関連的起債原則論の完成——フィスカル・ポリシーの起債原則論——」…成城大学『経済研究』

第九八・九九合併号、昭和六三年一月、所収。

(事項解説) 「官房学的財政論の原典解題」…『成城大学大学院経済学研究科創設二十周年記念論文集』成城大

学経済学会、昭和六三年、所収。

〔事項解説〕 「官房学的財政論の研究文献解題」…成城大学『経済研究』第一〇〇号、昭和六三年七月、所収。
〔論文〕 「官房学および官房学的財政論の概要」…成城大学『経済研究』第一〇一号、昭和六三年十月、所収。
平成元年（一九八九年）

〔論文〕 「二〇世紀後半の出発点における起債原則学説の様相」…成城大学『経済研究』第一〇四号、平成元年三月、所収。

〔論文〕 「景気関連的起債原則論の支配——二〇世紀後半の起債原則論（一）——」…成城大学『経済研究』第一〇六号、平成元年九月、所収。

〔論文〕 「景気関連的起債原則論の支配——二〇世紀後半の起債原則論（二）——」…成城大学『経済研究』第一〇七号、平成元年十二月、所収。

平成二年（一九九〇年）

〔論文〕 「現代における起債原則論の動向」…成城大学『経済研究』第一〇八号、平成二年三月、所収。

〔論文〕 「現代における起債原則論の動向（二）」…成城大学『経済研究』第一〇九号、平成二年七月、所収。

〔事項解説〕 「財政学」…受験新報別冊『司法試験問題と解説』平成二年度版、平成二年九月、所収。

平成三年（一九九一年）

※（昭和五〇年代以降の前掲諸論文中、標題の内に起債原則学説ないし起債原則論という表現が含まれているもの、および成城大学『経済研究』第六八号所収のもの、合計十九編ばかりを柱にして、前掲著作「公債政策思想の生成と展開」千倉書房、平成三年を公刊した）

履歴および研究業績表について

履歴および研究業績表について

(共訳) 信岡資生・池田浩太郎訳・ユステイ「租税および公課についての一般的諸原則、一七六六年」…成城大学『経済研究』第一一三号、平成三年七月、所収。

(共同執筆論文) 信岡資生・池田浩太郎「ユステイ財政論の特色と租税原則論の構造と生成」…成城大学『経済研究』第一一四号、平成三年十月、所収。

平成四年(一九九二年)

(論文) 「ユステイ租税原則論の学説史的意義 (一)」…成城大学『経済研究』第一一五・一一六合併号、平成四年三月、所収。

(論文) 「ユステイ租税原則論の学説史的意義 (二)」…成城大学『経済研究』第一一七号、平成四年七月、所収。

(共訳) 杉ノ原保夫・池田浩太郎訳・ヴィクセル「租税帰着学説のために (1)」…成城大学『経済研究』第一一八号、平成四年十月、所収。

(共訳) 同 (2) …成城大学『経済研究』第一一九号、平成四年十二月、所収。

平成五年(一九九三年)

(共訳) 杉ノ原保夫・池田浩太郎訳・ヴィクセル「租税帰着学説のために (3)」…成城大学『経済研究』第一二〇号、平成五年三月、所収。

(共訳) 杉ノ原保夫・池田浩太郎訳・ヴィクセル「公正な課税の一新原則について (1)」…成城大学『経済研究』第一二二号、平成五年五月、所収。

(共同執筆論文) Masazo Ohkawa and Kotaro Ikeda, Government Bonds, in: Japan's Public Sector. How the Gov-

ement is Financed, Ed. by Tokue Shibata, University of Tokyo Press, 1993.

(池田の邦語原稿を基礎に、大川政三教授が英文作成を担当)

(共訳) 杉ノ原保夫・池田浩太郎訳・ヴィクセル「公正な課税の一新原則について」〔2〕…成城大学『経済研究』第二二二号、平成五年十月、所収。

(共訳) 同 (3)…成城大学『経済研究』第二二三号、平成五年十二月、所収。

平成六年 (一九九四年)

(共訳) 杉ノ原保夫・池田浩太郎訳・ヴィクセル「公正な課税の一新原則について」〔4〕…成城大学『経済研究』第二二四号、平成六年三月、所収。

(共訳) 同 (5)…成城大学『経済研究』第二二五号、平成六年七月、所収。

(論文) 「ヴィクセル財政学説の本質と概要——ヴィクセル『財政理論研究』一八九六年、解題——」…成城大学『経済研究』第二二六号、平成六年十月、所収。

——平成七年 (一九九五年) 以降——

平成七年 (一九九五年)

※(前掲共訳「租税帰着学説のために」および「公正な課税の一新原則について」に、論文「ヴィクセル財政学説の本質と概要」を配し、また、この共同作業の最初からの参加者である池田浩史専任講師を共訳者に加えた、三人の共訳の形で、K・ヴィクセル『財政理論研究』千倉書房、平成七年、が公刊された)

履歴および研究業績表について

履歴および研究業績表について

〔論文〕 「経済と国家——『大きな政府』論対『小さな政府』論、その対立と展開過程——」…成城大学『経済研究』第一二八号、平成七年三月、所収。

（平成六年四月六日、成城大学経済学部新入生のための記念講演草稿の訂正・補筆版）

〔論文〕 「財政および財政学——財政学の対象と方法——」…成城大学『経済研究』第一二九号、平成七年七月、所収。

〔論文〕 「公共経費論の二つのテーマ (1)」…成城大学『経済研究』第一三〇号、平成七年十月、所収。

〔論文〕 「公共経費論の二つのテーマ (2)」…成城大学『経済研究』第一三一号、平成七年十二月、所収。

平成八年（一九九六年）

〔論文〕 「私の財政学研究の周辺」…成城大学『経済研究』第一三三号、平成八年七月、所収。

平成九年（一九九七年）

〔共訳〕 池田浩太郎・池田浩史共訳・アードルフ・ワグナー「社会的財政政策および租税政策について」

八九一年 (1) …成城大学『経済研究』第一三六号、平成九年三月、所収。

〔共訳〕 同 (2) …成城大学『経済研究』第一三七号、平成九年七月、所収。

〔共訳〕 同 (3) …成城大学『経済研究』第一三八号、平成九年十月、所収。

（平成九年——一九九七年——十月末現在）